（十六日夕刊）
磐城新聞
休刊　大祭日第一第三日曜
定價〔壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢〕
廣告料〔一行五十錢指定廿錢增〕
發行兼編輯印刷人　運沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

戰爭繪的の風景（下）

――詩に就ての簡單な決算――

平田哲

5編輯後記の妙な言葉も大体わかつたことにしやう一言で云へば詩人は決して・現實の社會とはかけはなれた存在ではなく、反對に現實を正しく捕へ優れた手わざで詩人に表現する（ロダンの言葉）ところに生命があるのだ。例へば現在の階級社會にあつて、銳く對立し合つてゐる階級を直正面から描き出すとき永崎の詩が、猪狩の詩が、長瀬の詩か、一般にプロレタリア詩が生誕するのだ。その各々の諸相こそあれ――決定的に對立する勞働者、對立の中にもがき苦しむどん百姓何古い搾取關係にある徒弟それらは皆現實の社會に反逆しつゝある存在である、それにも關らず。われ〳〵は一方に、これらとは全く無關係な詩人の一群を見る例へば「詩南車」――いつも僕はこれを例にとるが、いさゝかの惡意もなく輕蔑もしてゐない。いく分の敬意をさへ持つてゐるのだから――の中に永崎の詩の一行でも見出す人があるだらうか、何がこれら二つの全く相反した現象を起させるのであらう。――そんな事は云ふだけ野暮さと、人々は片付けてしまふ、たしかに野暮だ。そんなことは時代を一九二八年に逆行せしむることであつて、一九三〇年への道でないから。

6さて表紙の繪――屁のやうな色の上に描かれた戰爭繪――を誰かゞ説明して呉れたらうか、永崎も、猪狩も、長瀬までもが説明してゐない以上、矢張り僕は勝手に説明する外ない。勿論長瀬の考へてゐることが僕にミヂンも考へられないかも知れない。長瀬よ憤慨するのは待つて呉れ！僕はから考へたのだ。僕には何かしら、戰爭（！？）が近付きつゝある樣に思はれる。

それで――永崎のうたふ勞働者、猪狩のうたふどん百姓長瀬のうたう小僧が兵隊にとられたとする（そこから悲劇は始まる）戰爭に出て行つたとするのだ、すると繪にあるやうに、軍艦に乘せられ、大砲の標的とされ、風船玉のやうに天から逆かさに降つて來たり、魚の餌となつたりしてしまつたなら、――玩具の兵隊のやうに面白づくに敵を殺へられて――彼等はいろ〳〵の苦しさから解放されるだらうか。無事に凱旋したとしたら、貧乏といふ二字は消ね失せてしまうだらうか。

それとも又、軍艦に乘つた兵隊さんが、向ふにゐる三人を狙つたとする、三人は繪のやうに手をあげて――戰爭なんて止めやうよ。兄弟！と叫んでゐる繪ではなからうか。――戰爭したつて俺達は貧乏なのに變りはない！と僕は「らつぱ」第四輯を讀んで好い氣持になつてゐる中に、そんな夢みたいな説明をしてゐたのだ。併し僕の夢は長瀬の描いた意圖とは糸一本のつながりも無いと信じてゐる――僕のは夢なのだから。

7最後に僕は約束通り簡單な決算報告書を示さなくてはならない。だが。それにしても今は材料がない。それ故一九二九年前期の決算はいつか本紙に書いた。「平の藝術運動」で許して頂きたい。一九二九年の初めに「無軌道」が出なくなつて以來、從來の詩人は皆姿を消した。三野、高瀬、雄野松本は衰へ、石川、島田などは沒落した。たゞ一人雄野は詩集を出し「北方」その他に詩を書いた、高瀬、松本他に仕事でもあつたのであらうか目立たなかつた、「詩南車」は十月に復活し歌句展號を出してゐか會ての元氣さへもないそれはしよりも和歌、俳句を生命とするまでに重病に瀕してゐる、だが展覧會に於て四千の人氣を集めたことは注目せねばならない、片寄は未だしに於て、活躍しても好いではなからうか。殊に岡田や波立等がその近くに居るのではないか、その他「刑し人」等々がある由なるも見てゐないので書けない兎もあれ、一九三〇年は元氣潑溂たる新らしいし人達例へば「らつぱ」の佐藤、猪狩、長瀬等々……によつて開拓されるだらう、然し決してそれのに止まらないと僕を信せしめる何物か力強い新らしい無數の眞のし人達の叫びが僕の耳をうつてゐる妄言多謝。

（一九二九・一二・一二）

易日
の
吉凶

新暦十二月十七日
舊暦十一月十七日

▲一白の人　心區々に岐るゝときは忙しきのみに巧薄し▲二黑の人　坂に車を押すの心を以て挽きすんば幸福報ゆ▲三碧の人　脫線を愼み倦むことなくば吉日となる▲四綠の人　汗より生れ來る效果の初めて現るゝ福德日▲五黃の人　福分はあれども散慢なる行ひも生じ易き日▲六白の人　氣を勵まし嬉鬪すれば人の援助も加ふるべし▲七赤の人　吉運の日なれども一歩を誤れば波瀾を生ず▲八白の人　駒虎の勢ひに逸らば不測の難を招致すべし

講談

幕末奇傑高山彦九郎

(23)　中西洋々作　布施長春畫

郷關を出づ（三）

「ではいつて參ります」

まだ、別れのつらい思ひに襲はれ乍らも、彦九郎は敢然として云ひ放ちました……。

「おゝ、では。隨分と、氣をつけて行くがよい」

「はい、叔父様も隨分氣をつけなされて……」

「うむ」

「さらばでございます」

「さらばざや、氣をつけてゆけよ」

「ありがたうございます」

後に、かすかな愛執の念をもやし乍ら、彦九郎は。足早に夜道をいそぎました……。

それを、いつまでも〳〵、長藏は門の前にあつて、見送つて居るのでした。

彦九郎は軈て、百々の村はづれの佐吉の住び近く參りました。

「佐吉は、如何致して居るであらう」

ふと、から考へたとき今立寄らねば、とはに相見ることが出來ないやうな思ひさへして、彦九郎は思はず立ち止まりました。

「さうぢや、今行つたとて最早餘程の夜更け、言葉をかはすこともかなふまいがせめて、よそながら別れなりとも……」

さうひとり心にうなづいて、畔道を左に、佐吉の家の方へそれでゆきました。

近づいて見ると、わづかな戸の隙間から、かすかなともし灯の光りがもれて參ります、そこから、うちらを覗いてみると、病床に橫たはつた佐吉は、餘程の重態らしく、枕もとに、一人娘のお光が可憐な姿をたのゝかせて居る外、一人の男の影さへ見えます。それがどうやら、細谷の甚作らしいのです。

「おゝ」

甚作の改心の程が、はつきりと見ねて、彦九郎は、流石に嬉しい思ひがいたしました。

「この、彦九郎づれの誡しめをさへ守つて、甚作も眞人間になつてくれたか」

一人、會心の思ひに耽つてゐたとき、うちらからは絶え〳〵の息の下から、佐吉の苦しげなせき拂ひの音が聞えて參ります。

「これ。お光！」

つゞいて、か細い、しはがれた聲乍ら、夜の靜けさの中を、佐吉の聲がはつきりと、きこえて參りました……。

「この、二三日、高山の若旦那様は、お見ねがないようだが……」

「いゝえ。お父さま」

「お光は、いぢらしく、笑顔をさへ作つて。

「若旦那様はな、明日はきつと寄つて下さると、甚作兄さんに言傳て下すつたのですぞね」

「うむ、明日の晩はな」

甚作も、それに言葉を添へました。

「きつと寄つて下さると、仰しやつてゐらつした、だから、叔父さんも、それ迄にすつかりよくなつてゐなくちやいけねえよ」

「うむ、さうか」

病人の頰には、苦しい乍ら、かすかな、滿足の笑みが浮んだやうでした。

「ちやが、明日の晩まで、生きて居れるか、どうか、それがな……」

「なにを、馬鹿な、叔父さん、そんな元氣のないことを、どうするものか」

甚作は、激ますやうに、わざと怒つた聲で云ひました。

「ほんたうに、お父さん、そんな氣の弱いことを仰しやつては、いけませんわ。若旦那様の御恩に對してももう一度、元氣なお父さまになつて下さらなくては……」

かういつて、甲斐〴〵しく父を激ますお光の言葉のいぢらしさよ。

思はず、彦九郎は熱涙をしぼり乍ら、その破れ戸をひきあけました。

若柳流舞踊之各手
若柳吉郎師
近日中御來平の上當地劇場に於て開演ス
後援　磐城新聞社　磐城時報社

夜間診療
胃腸　梅毒
内科　十二指腸蟲病　專門　内科部
淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部
松村胃腸性病科醫院
（平南町電話一〇一七番）

内科診療
消化器病科　呼吸器病科
小兒内科　一般内科
入院應需（自炊ノ便アリ）
平町鼠坂
渡邊内科醫院
電話一六一番

毎月一日新學期開始
生徒大募集（學則及び入學案内申込次第進呈す）（時間貸歡迎）
自動車界今後の大發展に順應せんが爲め、本校茲に見る所あり、有爲の青年の爲め奉仕的破格の授業料を特定し大募集を開始せり。機は熟せり、先づ來りて本校獨特の教授を見られん事を望む。當地練習の長時間にして學資の低廉なること全國無比、本校最も誇りとする所なり。
本校出身者の受驗者は實に七割以上の合格率を有し、現在入學生七拾餘名の多數成り

本科	三ケ月卒業	三ケ月分	六十圓	學科實習費共
速成科	二ケ月卒業	二ケ月分	四十五圓	學科實習費共
受驗科	一ケ月卒業	一ケ月分	三十圓	學科實習費共

◎受驗準備短期練習部　毎月試驗前開始十日間全學費十圓
◎卒業生は試驗前無料練習の便あり
◎時間貸値下　新フオード、シボレー一時間三圓　T型フオード一時間二圓
公認　磐城自動車學校
福島縣平町四軒町電話六四〇番

開店の御知らせ
美味で評判の　イワキ食堂が　此度皆様の御後援を受けまして
田町松月堂隣へ
イワキサロン　として移轉開店いたしました
名前通り清持よい客間で御座いますドーゾ御運びを……
平町で初めての試みであります酒場を特設いたしました
カクテールの……見惑
リキユウルの……芳香
東都一流のバーテンダーが腕によりをかけて御待ちして居ります
田町通り
イワキサロン
電話三五二番

新荷着ト商品全部値下
貴金屬　時計　眼鏡　蓄音器
金側寶石入アンクル腕時計　十貳圓ヨリ
クロム側寶石入アンクル腕時計　六圓ヨリ
十八金石入指輪　四圓ヨリ
精工舍裝〇S印目覺時計　貳圓ヨリ
精工舍製美術硝子置時計　貳圓ヨリ
商事會社製八日卷掛時計　五圓ヨリ
外保險付領安品澤山入荷
歲末ノ御贈答品ヲ是非
皆様ノ　金光堂時計店へ
電七三六
◎時計蓄音器修繕ハ早ク良ク安ク致シマス

清釀造元
世界吉
銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町
清水屋
小野晋平
電話六番

XMAS SELL 12 1 2 3
期間十二月十五日ヨリ十二月卅一日マデ
賣切の節は何時にても打切り
大福引付計時大廉賣
奉仕的に！！大犠牲を拂ひ
弊店にて金五圓以上御買上の御客様に對し左記大當り福引券、もれなく差上げます

一等當り	十八金側スキス製十五石入腕卷時計	五本
二等當り	銀側スキス製寶石入懷中時計	二十本
三等當り	銀側スキス製寶石入腕卷時計	七十本
四等當り	銀側スキス製寶石入小形懷中時計	百〇〇本
五等當り	ニツケルスキス製寶石入小形懷中時計	二〇〇本
六等當り	正確無比の小形置時計	四〇五本

全部空籤なし
賞品は全部賣品の新品にて弊店保險付
平町三丁目
常盤屋時計店
電話（三）三九番

御婦人のせうかちには
淋病と是非この薬が必要
殊に、慢性の淋病、せうかち、で此薬に氣付かぬと一生涯惱まなければなりません、
こゝに角一週間飲めば眞價が判ります
注意、薬は三週間迄ありますが意外に早く治る方がある故、最初は先づ一週分で結果を見る事が必要です。
峰岸淋丹は一般賣薬と異なり家傳の秘法を嚴守して調製する當家の專賣薬なれば、希望者は本家へ來訪あれ遠方の方は前金なり代金引換なり御都合のよい便で申込み何品か判らぬ樣密封小包でスグ送ります
一週分二圓七十錢、二週分五圓、三週分七圓、前金は送料十二錢、代金引換は三十錢
東京峰岸淋丹
縣下一手頒布所
平町南町火の見下
電四三九番

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は
三四三番
サシミ

内科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

氣味の惡いほど 平地方の暖かさ

此の氣温が當分つゞく

測候所の觀測

石城郡地方は去る十二日以來冬には珍しい暖かさだが此暖かさは十四日も續き十五日の日曜も――そして當分同じ樣な温度が續くらしいといふ事である

十二日は午後六時の温度攝氏十三・九度、十一日同時刻十四・六度、十四日同時刻十六・七度と段々昇り十五日も平年より七八度は高く全國的に曇り小雨となる模樣であるがかうした季節はづれの暖かさの直接の原因は

例年の冬の氣壓の配置に反して高氣壓が北によりすぎ日本全体から日本海あたりまで、低氣壓につゝまれ、南洋方面の高氣壓も北寄りで、このため上層は南東風が吹いてゐるから日本全体が暖かくなつてゐるといふのであるが

この高氣壓が北方に寄りすぎてゐる現象は、太陽の黑點が近年になく增加してゐるためで、十一月二十八日以來百六十個前後に達してゐる現狀であり氣象學上、冬期黑點の增加は、大陸上の高氣壓を北寄りにすることは最近やうやく說となりつゝあり、現在の氣壓の配置はその實證の一例ともいへるものである

炭界不況の對策に 販賣の合理化

近く常盤の無煙が 研究機關を組織

石炭界は昨今極度の不振を示し殊に常磐地方の炭礦各社は炭質上賣行難で、例年十一月頃炭價引上げを行ふところ今年は今に至るも値上げも出來ないでゐるが磐城炭礦、大日本炭礦、大倉炭礦の三社は十二日會合の結果前記三社の大特約店十店を含め先づ無煙炭の販路擴張に着手する目的で常磐無煙炭研究會を組織し次の如く販賣上の合理化を圖ることに決定した、すなはち

一、昨今常磐無煙炭は宇部ならびに支那の本溪湖炭、北海道の半無煙炭および瓦斯コークス等の競爭炭ないし代用炭に壓迫され勝であるから今後これ等ノ競爭炭代用炭の調査をなし對策を講ずること

二、三社聯合して宣傳部を設立し消費家方面に大々的宣傳をなすこと

三、從來代金回收思はしからずために賣控へることも多かつたのでこれが回收方法を研究して販路の擴張を圖ること

四、中間手數を除去して生產者から消費家へ簡略に賣り捌く方法を講ずること

五、受渡その他の諸掛の節約を圖ること

なほ早晩有煙炭についても右の如き方法をとると

クリスマス・カムズ

長岡加藤晴

クリスマスが近いて來た、クリスマスはオモチャ屋の店さきから來る、日曜學校の先生たちはクルシミマスの忙しさクリスマスの準備に忙殺されて居る、クリスマスは近年いちぶるしく民衆化されて來た、サンタクロースが正宗の瓶を抱へて來る等は一種のグロテスクの感であるがそれ丈け民衆に深く喰入つてゐるのである。カフエーの入口にはクリスマストリーが衒立てられ聖かるべき十字架が酒で汚されてゐる。女給がクリスマスチケットを客に押賣するのも悲然ではない。二の類ではサンタクロースもサンザ、クロースで泣いて御座るかも知れない。

×　×

クリスマスは言ふまでもなく耶蘇の降誕節でお祭騷ぎをする類ではない。もつと眞劔に純情な心もちで迎ひるべきだ。それが如何に民衆化とはいひ乍らカフエーと酒と女の廣告になるなんて餘りと言ひば餘りだ。

×　×

ふだんは耶蘇味噌と罵言をあびせかけてゐる連中が喜んでクリスマス丈けを歡迎するはチト矛盾してゐるやうに考へてゐる。私等はドッチかと言ふと耶蘇敎の部類に屬してゐる（御承知の方もあるかも知れないが私はもと卒の或グループで耶蘇敎の付道をしてゐた）目下は敎會に片せず自由な私の基督敎を信奉してゐるが然しクリスマス等はどうでもよい。神基督それそのものに私の信條があるからだ。クリスマスは單なる子供喜ばせ的のものとしてプレセントする位にとゞめそれ以上私の生活には何の意義も齎さない。若し私がクリスマス・メリーを加ふるならばもつと〳〵ホーリイなものとして守り度いと思つてゐる。現在の所謂クリスマスなるものは墮落してゐる私はクリスマスの淨化を叫びたい。

平町商工會で

經濟講演

二十二日藤田で

平町商工會では來る二十二日東京朝日新聞社經濟部長法學士前田繁一郎氏を招き平町藤田女學校に於て經濟に關する講演を催すと尚同日午後一時より二時迄は講演會二時より四時迄は座談會であると

虱つぶしの戰法で 家主に强硬談判

社民黨が先陣を務め

平町の家賃値下

棚からボタ餅式に好調子に實現されぬ事は百も承知しながら一般店子の餘りに弱腰から評判まけの狀態におかれてある平町の家賃地代値下げは總帥格の社民黨支部が先頭に立ち頻りに大同團結へを鼓吹してゐるので最近更に氣勢をもり返し形勢は依然好調をたどつてゐるまた〳〵樂觀の域には遼遠で更に近く第二回の借地借家人大會を開く段取を進めてゐる一方各區に分れて贊成調印を取纏め中のところ大体終了したのでそれ〳〵各區に委員を設置し更に該委員中より交涉委員を擧げて具体案を協議すべく遲くも十八九日頃までには何等かの組織立つた即行要目が完成する譯で運動は一歩〳〵成功に向つてゐる

赤木氏榮轉

磐崎村藤原三井鑛業所事務部長赤木吉太郎氏は北海道砂川の三井鑛業部長に榮轉したが後任は未定で伊藤所長が兼任の筈

貨物列車

―に就て―

プロ文藝雜誌「貨物列車」は「文潮」の改造になるもの新年は次の如き內容を以つて刊行された。

創作

Tボックスの點描　中本彌三郎

人事を盡したと言ふ船長　鶴不寧布

走らしたビオニール　鐵田禮二

波居場に遊ぶ少女　淺田種郎

貧困の律動　柏原良三

論壇

遊閑文學への挑戰　大路亘

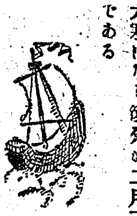
燃えろ！疵だらけの肉体から　大塲歡夫

その他

昭和五年の曆

勤人は惠まれた年

例年の通り神宮神部署から昭和五年の曆が頒布された、即ち明昭和五年は平年の庚午（かのえうま）で神武紀元二千五百九十年西曆千九百三十年である、月食は十月八日午前三時四十六分二から同四時六分五までの間に右の上からかけはじめて三厘ほど食甚、同四時二十七分に終る、時刻が時刻だけに月食見物といふわけにもゆかない、そしてこの代の月の入りは午前四時四十八分であるから、月食が終ると間もなく月が入るのである、日食は、四月廿九日と十月廿二日二回あるけれども、前の方は我が國では千島列島以外は見られず後の方は小笠原島の南方硫黃島、南島の外は我が國では見られない、それから、來年は日曜日と祭日と二日續いた休みが十一月二日の日曜日と三日の明治節と續く一回だけであるがそのかはり日曜と祭日と重なるのが十一月廿三日の新嘗祭一回だけであるが、祭日と日曜と一日間を置いてゐるのは多くまづ一月三日の元始祭と五日の日曜、二月九日の日曜と十一日の紀元節、三月に入つては廿一日の春季皇靈祭と廿三日の日曜、四月廿七日と廿九日の天長節、それから十月十七日の神嘗祭と十九日の日曜等である、日曜祭日も續くことこそ少いが勤め人にはまづ惠まれた年である、なほ一月六日が寒入り、廿一日が大寒になり節分が二月三日である



今年掉尾の

平町會

十八日に召集

本年掉尾の平町會は來十八日招集町有地處分公金預金對策等を附議協議する筈

平町明年度の

壯丁人員

去年より增加

平町に於ける昭和五年度壯丁總人員は百五十七名で昭和四年度の百四十六名に較れば十一名の增加である

磐中同窓會

三日新年宴會を

磐城中學校同窓會は來る一月三日午後五時より平町佳吉屋本店に於て新年懇親會を催すと尚出席者は會費二圓で平町諸橋元三郎あて申込まれたいと

去年より四十三戸 平町の戸數增加

新川町十五戸減り

月見町が殖える

平町當局で調査した十二月一日現在の平町にたける現戸數を見ると總戸數は四千七百十一戸でこれを昨年の同期に比すると四十三戸の增である更に町內における增減について見ると新道開鑿の結果により新川町が十五戸減じて居るのに反し町續きの月見町が二十一戸增してゐるこれは片倉磐城製糸工場設置による發展でその他は住宅地の城山が十一戸外町內が一戸平均に增戸した位である

四倉町の公有地 無斷使用に惱む

町民非難の聲高く

四倉町對策協議

石城郡四倉町では十四日午前九時から公用地調查委員會を招集し最近公有地內に濫りに建造物を建設するものあり而も有識者多きが爲めに數通の投資さいあるより當局も捨て置けず甚だしきは永久的にコンクリートさへなし他人の用地にまで侵略するの不法行爲を敢てしてゐる狀態にて町民非難の聲が囂々と傳へられてゐるので之が實地に就き嚴密なる調査を遂げた結果愼重協議をなした末に何れも撤回せしむることに一決し外道路の改廢其他二三の案件を附議して散會した

鎌田遊廓で

喧嘩

客と牛太郎

石城郡湯本町古物商阿部松五郎（五八）は十六日午後十一時ころ同僚と共に平鎌田遊廓榮樓に至り遊興したが金策不足のため同僚を殘し金策に外出歸途廓入口の甲子樓方牛太郎と些細のことから口論をなし牛太郎に散々毆打されたので十三日平署に訴へ出た

久の濱で

船具盜難

犯人搜查中

久之濱町字江の綱鈴木清太郎氏所有の漁船が去る十四日早朝出漁せんとせしに同船內のバルブ二組マルシユウコック外數點價格三十餘圓程の品が紛失してあるので出漁出來ず大騷ぎとなり八方搜查中であるが同町に於て漁船の機械二三回紛失せる事有り四倉署で犯人搜查中

大演習映畫

白銀青年分團で

平町白銀青年團では來る十九日晝夜平町聚樂館に於て東京日々新聞映畫部フイルムを借受け料金無料但し下足料五錢を以て映畫會を開くがフイルムは東京日日新聞記者里見絹技女史のスポウソホーム並に茨城縣下の大演習實寫等であると

農產品評會

植田町で開會

植田町小學校に於て去る十四日開催された植田町農產物品評會は去る十五日石城會より紫田技手出張の下に審查したが左の如き結果に終つたと

（一等）　鈴木雄同八代安藤同鈴木末吉

（二等）　鈴木平次同內藤金次同石伊五左右エ門

（三等）　鈴木平次同水野富吉同柳葉藤一

（四等）　鈴木安休同赤津機平

飯野農產品評

飯野村農產物品評會は石城郡農會より紫田技手出張審查したが（一等）六名（二等）十一名（三等）十二名であると

安齋外科醫院移轉

院務の擴張發展で

元赤心堂病院へ

平町田町安齋外科醫院は以前田町大通りに於て開業中のところ院務の擴張發展と共に狹隘を感じ移轉新築の計劃を樹て敷地物色中偶々田町赤心堂病院の新妻院長が靜養の爲め同病院を讓り受け安齋外科醫院として移轉開業一般外科患者の診療に從事することとなつたが院長安齋撤氏の優秀なる手腕と醫院內容の完備とは益々好評を博してゐる

江名漁業組合

事務所を新築

江名漁業組合では佐藤新組合長就任以來事務の刷新と能率を計る爲め組合事務所の移轉新築を計劃築港岸壁に新築中のところ落成したので此の程移轉したが昨十五日午後一時より新組合事務所樓上に總會を開いた

濱三郡の

三業會議

富岡町で開く

濱三郡三業組合會議は十三日午前十時より富岡町旅館龜屋本店に於て開催規約の制定、役員の選擧を行ひ懇親の宴を張り盛會を極めて午後五時散會した

新築落成

耳、鼻、咽喉科
氣管食道科（專門）

平町南町（舊診療所向電一七〇番）

大和田醫院

大和田郡司

自炊の便あり

平町紺屋町

吉田眼科醫院

◎ネイションストーブ値下斷行

◎ネンシヨウストーブ

連續完全燃燒、燃料經濟、調節自在、堅牢優美、價格低廉

◎スタデリナ石油コンロ

◎及、林內式石油ストーブ

燃料經濟薪炭ニ勝ル、便利ニシテ使用簡易ナル無煙無臭點滅調節自在ニシテ体裁優美ナリ緊縮時代ニ最モ理想的國產品デアリマス弊所ハ是ガ製造元ト特約ナシ極メテ薄利多賣主義ヲ以ッテ皆樣ノ御需ニ應ジマス是非御試シノ程願上升

日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油會社重油特約店
諏訪電氣株式會社カーバイト特約店
茨城縣下館驛前（電話五五番）
商號　吉田油槽所

本店　關彰商店
常磐線平町一丁目（電話六一番）（九〇二番）
關彰商店平支店

入院隨意（自炊の便あり）

X光線
外科專門

平南町

上田外科醫院

電話一二九

內臟外科
外科一般
花柳病科

入院隨意　自炊の便あり

平町田町赤心堂病院跡

安齋外科醫院

電話四三六番

內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
皮膚病　外科、梅毒、淋疾　市原三男

平町田町本通

市原醫院

（入院隨時）　電話一一四番

健康第一
健康は胃腸から

ホシ胃腸藥

クスリハホシ
星製藥株式會社
東京・大阪